親育ち応援学習プログラムの概要

1　プログラムの目的について

「親育ち応援学習プログラム」は、これから親になる若い世代の方から、現在子育て真っ最中の方、そして孫育て期の祖父母世代の方まで、幅広い世代の方を対象にした「親育ち」を応援するために開発したプログラムです。

このプログラムの目的は、子どもの健やかな成長とともに、互いに子育てについて学び合い、親として育ち合うことを支援することです。

現代社会においては、子育てに関する経験をしないまま親となり、様々な不安を抱えながら子育てをしている親、様々な子育てに関する情報に振り回されている親、様々な要因により孤立しがちな親などが増えてきています。子育てに関して困ったことがあったとき、同年代の子どもを育てている方や子育て経験者の方など、身近な地域で気軽に相談できる人がいたら心強いのではないでしょうか。

このプログラムでは、親同士や若者同士、祖父母をはじめ地域の方が交流しながら、子育てについてともに気付き、楽しく学び合うことができます。みんなで集まって交流しながら、身近なエピソードや資料等をもとに話し合うことにより、「悩んでいるのは自分だけじゃなかったんだ」「このやり方でよかったんだ」と互いに共感し合ったり、「そう考えれば気持ちが楽になる」「こういうやり方もあるんだ」と主体的に学んだりすることができます。そして、参加者同士がつながり合い支え合うきっかけづくりにもなります。

身近な地域で、気軽に活用することのできるプログラムですので、乳幼児健康診断の機会、保育所や幼稚園などの懇談会、ＰＴＡ研修会、子育てサロンなどの勉強会など、子育てに関わる様々な場面で活用していただきたいと思います。

2　プログラムの特色と構成について

★プログラムの特色

　このプログラムは、講演会や講義などのように、講師の話を参加者が一方的に聞いて学ぶのではなく、身近なエピソードや資料などをもとに参加者同士が話し合い、交流しながら、主体的に学ぶ、「参加型の学習プログラム」です。

　学習者が安心して意見を出し合い、話を聞けるように、ファシリテーター（学習活動を支援し促進する人）が、アクティビティ（学習活動）を進行していきます。学習者は、グループでの話し合いなどを通して、自分にとって必要な知識やスキルなどに自ら気付き、主体的に学んでいくことができます。学習者みんなの力で、それぞれが自分に合った答えを見付けていきます。

～「参加型の学習プログラム」とは～

　学習者が自らの知識や体験をもって積極的に参加し、互いに学び合うことで、豊かな人間関係を育む力や積極的に課題解決に取り組む意欲、行動していく力が育まれていくプログラムです。

　学習者中心の学習であり、学習者が他者の意見や発想から気付き、学び合い、最後に振り返るという一連の学習過程で「学び」を大切にしています。そして、学習後に学びを実践しようする意欲が生まれ、学習者の変容につながります。

★プログラムの構成

　親育ち応援学習プログラムは、５つのステージ、33の学習プログラムで構成されています。保護者だけでなく、次代の親となる中・高校生から、祖父母をはじめ子育てを支援する幅広い年代の方を対象に、子どもの年齢や発達課題等に応じて内容を設定しています。参加者の関心によっては、違うステージの内容を選んで使用していただくこともできます。

Ⅰ　子育て準備期の中・高校生、まもなく親になる方を対象にしたプログラム

Ⅱ　乳幼児をもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅲ　学童期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅳ　思春期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅴ　祖父母をはじめ、子育てを支援する幅広い年代の方を対象にしたプログラム

3　プログラムの流れについて

プログラムによって多少の違いはありますが、学習活動は、だいたい次のような流れで進められます。

★標準的な学習の流れ

時　間	学習活動	学習活動のポイント・留意点等
10～15分	＜導入＞ ・学習のねらい ・三つの約束 ・アイスブレイク ・グループ分け 	○　学習の趣旨を分かりやすく伝えます。 ○　始めに参加者全員で三つの約束（P12）を確認し、互いに尊重し、みんなが協力しながら学習できるようにします。 ○　参加者同士が打ち解けられるような雰囲気づくりをします。 ○　話し合い等の活動がしやすい人数でグループをつくります。
30～60分	＜展開＞ ・学習活動 個人で グループで 全体で 	○　エピソードや資料等をもとに、個人やグループで学習活動を行います。 ○　互いに意見を出し合いながら、楽しく学び合います。 ○　グループでの活動において出された意見等を全体に紹介します。 ○　話し合い等がスムーズに進んでいない場合は、ファシリテーター（進行役）がサポートします。

10～15分	<まとめ> ・ふりかえり	○　学習活動を通して感じた「気付き」や「学び」を記入し、みんなで共有しながら考えを深めます。

4　プログラムの活用場面について

★こんな場でプログラムを使ってください。

子育て講座
（公民館・保健センター等）

保健体育科、
家庭科の授業等
（学校）

ＰＴＡ研修会
保護者会

家庭教育学級
（保育所・学校園）

乳幼児健診
就学時健診

子育てサロン
子育てサークル

親同士の交流の場
祖父母同士の交流の場
若者同士の交流の場
地域の方の交流の場

企業内等での研修
（おかやま子育て応援宣言企業等）

※託児を用意するなど、参加しやすい体制を整えるようにしましょう。

5　ファシリテーターについて

★ファシリテーターの役割

学習活動を支援し促進する人を「ファシリテーター」（進行役）といいます。ファシリテーターの役割は、学習者みんなが安心して学習に取り組めるように工夫したり、学習効果が高まるようサポートしたりすることです。

ファシリテーターは、次のようなことに留意しながら実施しましょう。また、初めて実施される方は、事前にファシリテーター経験者等と一緒に実施を経験しておく方がよいでしょう。

（1）学習者が自ら気付き、主体的に学ぶ力を引き出しましょう。

グループでの話し合いなどを通して、学習者自身がもっている力を引き出すようにしましょう。内容を分かりやすく説明したり、学習者の話から質問を変えてみたりするなど、臨機応変に進行することが大切です。

自分の子育てに自信をもち、楽しみながら子育てをしていくことができるように、学習者自身がもっている力を引き出しましょう。

（2）学習者の発言をしっかり受けとめ、上手な聞き手になりましょう。

学習者同士が語り合うことを中心に、学習を進行しましょう。そのためには、ファシリテーターは、「上手な聞き手」になることが求められます。

学習者一人ひとりの発言をよく聞き、相づちを打ったり、共感したりすると、話し手は安心し、語りやすくなります。そして、話し手の思いに焦点を当てたり、要点を整理して言葉を返したりしていくと、話し手自身が客観的に自分を見つめ、自らに気付きやすくなります。

（3）互いに尊重し、全ての人が参加できるように配慮しましょう。

学習者同士が互いに尊重し、みんなで協力しながら学習できるように配慮しましょう。「一部の人が一方的に発言している」「他人の意見を頭から否定している」ということがないように、学習を始める前に参加者全員で確認しておくことが大切です。（12ページ参照）もし、好ましくない状況になっている場合は、適宜アドバイスして流れを変えましょう。

ファシリテーターは、みんなが平等に話すことができる雰囲気づくりができているか、全体の様子に常に気を配りましょう。

※学習を進めるに当たっては、様々な立場の人が参加している場合もあることを想定して、十分な配慮をしましょう。

（4）流れの調整をしましょう。

学習者が活動や作業の手順を理解しているかどうか、時間が足りているかどうかなど、確かめながら進めましょう。学習者に合わせた進行を心がけ、流れの調整をしながら、学習を進行しましょう。計画通り進行しないことも予測して計画しておくとよいでしょう。

（5）学習者同士がつながり、関係が築けるよう配慮しましょう。

学習者の中には、地域で孤立しがちな人や家にこもりがちな人、他人との付き合いが苦手な人もいることが考えられます。

このプログラムを通して出会った学習者同士が、学習後もつながり合い、支え合っていくことができるようになることが理想です。

ファシリテーターは、参加者同士がつながり合うことができるようコーディネートしましょう。

（6）深刻な問題は関係相談機関を紹介しましょう。

学習活動の中、あるいは学習後に、いじめや虐待、ＤＶ等の、深刻な問題について相談を受けることもあります。

相談者の思いを受けとめ、適切な関係機関に相談するようアドバイスしましょう。そのためには、関係相談機関についての情報をもっておき、安心して紹介できるようにしておくとよいでしょう。

関係機関へ紹介するときは、相談者の信頼感を得ながら、責任をもって丁寧につなぎましょう。

★実施の計画

（1）プログラムの選定

ファシリテーター（及びスタッフ）は、どのような方を対象に、どのような内容（ねらい）の学習を実施するのか検討し、プログラムを選定します。

学習者の実態に合わせて、プログラムは自由に修正してもかまいません。また、違うステージのプログラムを使うこともできます。学習者の状況や人数、使用する場所や時間等に応じてアレンジし、効果的に学習できるように十分に検討しましょう。

（2）実施するスタッフ

ファシリテーターとして、このような学習活動を進行することに慣れている場合は、一人で実施してもかまいません。しかし、参加者の人数や場所等の状況によっては、複数のファシリテーターで実施する方がよい場合もあります。また、進行の補助（受付や資料の準備等）をする人がいれば、よりスムーズに進行できます。

（3）学習の形態

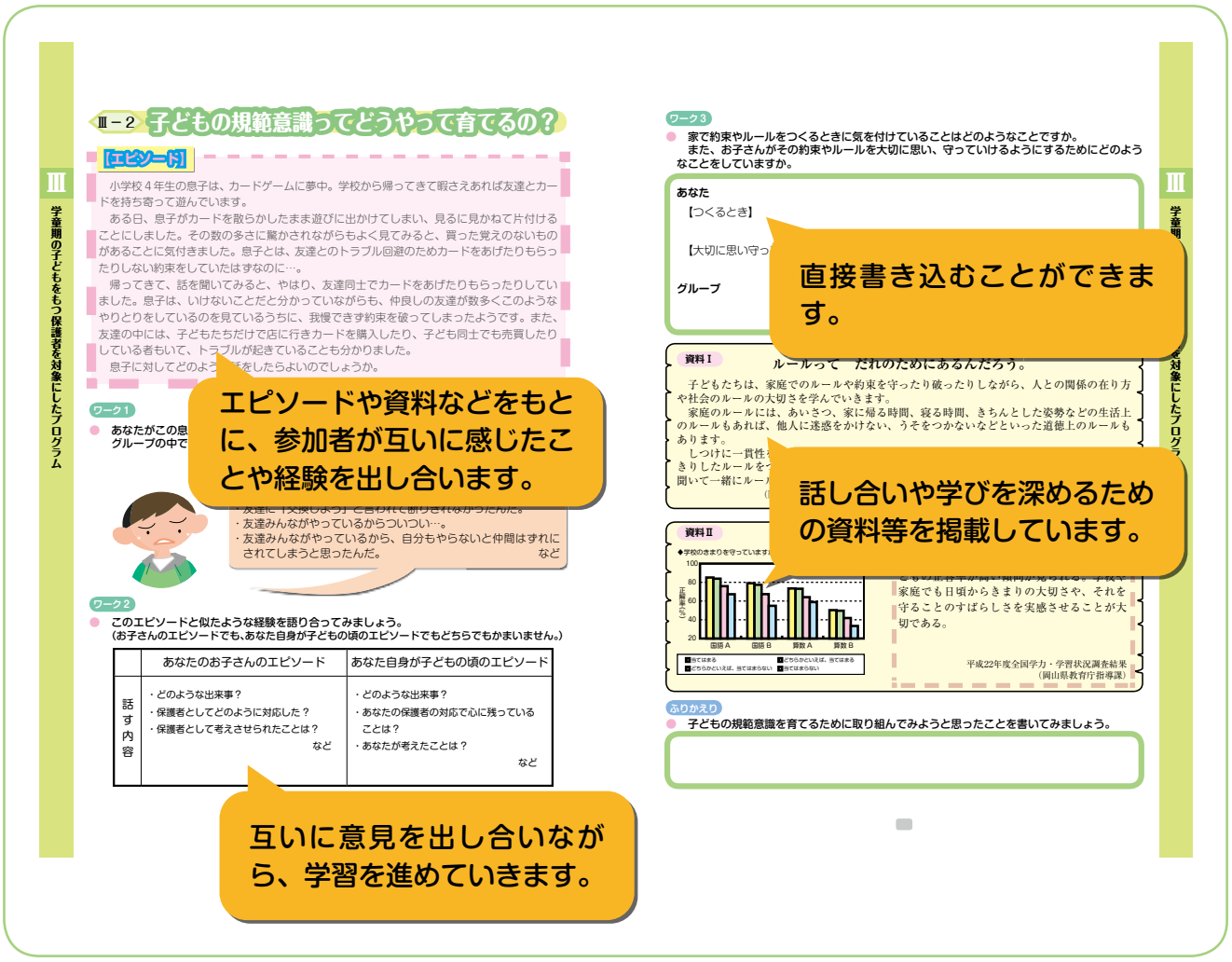
グループにおいて話し合いや作業等の活動がしやすい人数は、４～６人です。あらかじめグループ分けをしておいてもかまいませんし、アイスブレイクを行う中でグループを編成することもできます。学習者の状況や学習のねらい等に応じて学習の形態を検討しましょう。

★プログラムの使い方

各ステージごとに、３～12のプログラムがあります。全てを連続講座用としても使用できますが、場合によってはその中のいくつかのプログラムを使用してもかまいません。また、違うステージのプログラムを使用してもかまいません。

前半の「ワークシート編」（13～78ページ）には、各プログラムで活用できるワークシート、エピソードや書き込み欄、参考となる資料などを掲載しています。そのまま活用するだけでなく、部分的に活用してしてくださってもかまいません。学習の場面に応じて、効果的にご活用ください。

＜ワークシート例＞



後半の「学習の進め方編」（79 ～ 112ページ）には、各プログラムの学習活動の展開例を掲載しています。ファシリテーターは、学習を進めるにあたり参考にしてください。必ずこのとおりにする必要はありません。学習者の状況や人数、使用する場所や時間等に応じて効果的に学習できるようアレンジしてご活用ください。

＜学習の進め方例＞

Ⅰ　子育て準備期の中・高校生、まもなく親になる方を対象にしたプログラム

Ⅰ－2　子どもをもつということ

対象：子育て準備期の世代30人程度
時間：40分～ 50分程度

「子どもをもつ」「親になる」ということについて、様々なケースを知ることで、各自が考える「子どもを
との意味」を、ワークを通じて深めていく。

ループでの意見を共有するとともに、特に参加者各自の考えを深めることができる。
ークでは自分の言葉で記入する時間をしっかりと設けるようにする。）
どもをもつ（親になる）ということについて、ワークを通じて考えを深めることができる。

らかじめ４人程度のグループに分かれておく。
っくり自分の考えに向き合えるよう、落ち着いてワークできる環境を整える。
　　○　名札　　○　筆記用具

学習活動の大まかな流れを示しています。

時　間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導　入　10分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク	・落ち着いて考えを出しやすい雰囲気をつくる。 自己紹介により互いに親近感がもてるようにする。	名札
展　開　10分	ワーク１ ・エピソード文を読む。 記入欄に自分の考えを書く。 ・グループで話し合う。	◎「親の役割」について考えることをねらいとする。	
15分	ワーク２ ・詩を読む。 （進行者が読む、又は黙読） 記入欄の質問①に感じたことを記入する。 詩のエピソードを進行者が紹介する。 記入欄の質問②に感じたことを記入する。	◎親の「子どもへの思い」について、段階（質問１ エピソード→質問２）を経て参加者の考えを深 め ・時	
5分	資料紹介 資料を進行者が読む。 ※記述はしない。	◎資料紹介では「子どもができる」ということが、社会的には当たり前に思われる傾向があること、決してそれは当たり前ではないことを考えてもらうことをねらいとする。 「子どもを望みながら叶わない」ケースの体験談などの資料を紹介する。	資料２（新たな視点の資料）
まとめ　10分	ふりかえり 各自の思いを記入する。 ・発表し合い共有する。	・グループでの話し合いを行う。	

◎は各ワークのねらいを示しています。

「資料編」（113 ～ 172ページ）には、プログラムを進行する上で参考となる資料や、活用できる資料等を掲載しています。適宜ご活用ください。

「参考編」（173 ～ 181ページ）には、プログラム実施において参考となる資料などを掲載しています。「アイスブレイク集」には、簡単に実施できるアイスブレイクを掲載しています。学習の導入などでご活用ください。

6　学習者に心がけてもらいたいことについて

★学習を始める前に参加者全員で確認しましょう。

この学習プログラムは、参加者の皆さんが積極的に参加しながら、共に楽しく学び合い、皆さんで作り上げていく学習プログラムです。

「今日の学習に参加してよかった。」
「この人に出会えてよかった。」
「自分の思いを聞いてもらえてスッキリした。」
「こんな見方や考え方もあるんだ。」
「何か始めてみよう。」

など、この学習プログラムを通して皆さんがこのような思いをもっていただけたら、大成功です。そのためには、参加者皆さんの協力が欠かせません。

学習者は、次の三つのこと（三つの約束）を心がけ、積極的に参加しましょう。

三つの約束

（1）参加者はみんな平等です。

参加者（ファシリテーターやスタッフも含めて）は、みんな平等です。一人の人が話しすぎないように、みんなが発言できるように心がけましょう。平等に学び合える場になるよう、みんなで考えましょう。

（2）互いの意見や感じ方を尊重しましょう。

他の人の意見をしっかり聞き、意見を尊重しましょう。他人の意見を否定したり、自分の考えを押しつけたりしないようにしましょう。自分とは違う意見を知ることは、新たな視点で自分を見つめるきっかけとなります。

また、話したくないことは「パス」してもかまいません。他の人の話を聞いて考えることも大切な学習活動です。個人の思いを尊重しましょう。

（3）参加者の秘密を守りましょう。

子育てに関する学習プログラムですので、個人（あるいは家族）情報に関わる内容が出てくることもあります。同じ時間を共有する中で、参加者同士に信頼関係ができ、安心して自分や家族のことについて話ができ、学習が深まります。

学習する中で知った参加者の個人情報は、その場だけのこととし、他の人に話さないようにしましょう。